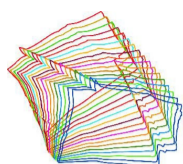


「自分の夢を叶える場」ですね。こちらの発表会で私は市民や施設関係者とチームを組んで、「東成区を金属アートの街にしたい」という夢を掲げました。



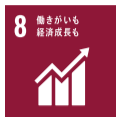
東成区サステナブル企業認証



HIGASHINARI SOCKET

「わが町工場見てみ隊」をはじめ、多くの見学会を開催している。見学に来た学生が製品や技術に驚いたり感動することが、社員の働きがいやモチベーションアップにつながるという。区民や地元企業、行政が一体となって学び合うラボとしてはじまった「ひがしなりソケット」にも参加。「ひがしなり企業と区民の連携のあり方」などをテーマに、SDGs達成を目指して、未来について語りあう。また活動の維持及び拡大を図りつつ、社会的健全性を両立させた企業として、「東成区サステナブル企業」にも認証されている

●株式会社光製作所



8 働きがいも経済成長も

奥 それ、カッコいいですね。

井上 東成区にはものづくりの企業はたくさんあり、後継者不足や廃業という問題をどう解決するかというなかで、木工などのアート作品はほかの町でもつくれますが、金属アートって機械や扱う技術がないと難しい。

棚橋 たしかにそうですね。

井上 ですからそういう作品をつくりたい人がこの町に住むことによって、制作しながら金属加工の会社で働けるとか。Win-Winの関係を築いていけるんじゃないかなというのがテーマで。さらにいえば区の支援を受けて、作品を公共の場に展示していけたら。それが実現したら、環状線の玉造の駅からものすごい金属アートの Monument が並ぶ風景が見られます。伊丹に飛ぶ飛行機からでも「なんでこんなところにこんなものが!」という面白い風景が楽しめるはずですよ。町工場×アートで、作品で自社製品、地元名品ができれば素晴らしいじゃないですか。

棚橋 東成に来たらいたるところに鉄の Monument があって、アートな町だと感じられるわけですね。

インドネシアの汚れた河川の水質を 常時観測して改善へと導く。

棚橋 本音を言うと私は最初、SDGsって嫌いだったんですよ(笑)。大手企業でも国連のサミットで採択されたから、胸にバッジつけてにわかSDGsと言いついて。いってみれば、企業の宣伝としてやっているような印象を受けたんですね。べつにこんな定義ができる前から、自分たちは取り組んでましたから、なにを今さらという感じで。それが時流に乗って、グローバルな共通言語として言われたただけでしょ。

井上 たまたまSDGsだったということですよ。

棚橋 そうそう。社員はすごく喜んでますけどね(笑)。うちは4番の「質の高い教育をみんなに」というものに力を入れていて。2030年までに学術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事および企業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させます。

井上 素晴らしいですね。

棚橋 それと「6」の安全な水とトイレを世界中に。別にSDGsと書かなくてもいいんですが、事業をあらためて見ると、すべての項目に関わっていると思うんですよ。とはいえ、「今やっていることが何につながるか」という意識を持って活動することは悪いことじゃないし、社員にそれを伝えていくのが私の仕事なのかなと思う。

奥 具体的には何をされているのですか?

棚橋 「インドネシア国リモート型省メンテナンス式水質管理システムの導入に向けた案件化調査」というもの。かんたんに言うと汚れた河川の水質を常時観測して、その数値をデータセンターに送るシステムの構築です。インドネシアでは貧困層はゴミ箱を持たないから、ゴミをポイ捨てする。だから上流はゴミだらけなんです。1号機を開発したものの、日本のきれいな川で実験しても仕方ないとの声もあり、無償で現地に送った。その後、実験しに現地に向かったのですが、機械にゴミなどが詰まってしまっ。次に機械関係の専門家を連れて行き、2号機をつくってセンサーの自動制御装置を開発した。インドネシア技術評価応用庁(BPPT)と当社の間で共同研究の基本契約書を締結し、2016年からは3号機の開発製作に着手。2018年には実証実験を開始しました。ようやく価格、電気消費量ともに普及できるレベルのものが完成して、地元のニュースで取り上げられたのですが、残念ながら今は新型コロナウイルスの影響で中断しています。



河川の汚染が深刻なインドネシアにおいて、一定期間メンテナンスフリーで重度汚染や高濁度の環境下でも水質の測定ができる洗浄機構を新たに開発。水質測定器に自動洗浄機能を付加するとともに、観測データの転送システムを構築することで、遠隔の河川についても常時水質を監視できる技術を導入することを提案し、現地河川の水質向上に貢献している



6 安全な水とトイレを世界中に

●棚橋電機株式会社

奥 この事業はどういう経緯ではじまったんですか?

棚橋 補助金事業としてJAXAの「まいど1号」をやっておられる方が、2012年JICAでカンボジアでの中小企業支援事業の案件化調査「カンボジア国パワーコントロールシステム事業化可能性調査」に応募したら採択されました。そこから2016年のインドネシアの水質管理にかかわる仕事まで結びつきました。自社で設計・開発をおこなうことにより、事業の幅を広げることを目的としています。それは自社をふくめた地域経済の活性化、ひいては国内経済の活性化につながる。井上さんの取り組みも同じだと思います。

井上 今日は棚橋さんに出会えてすごくよかったです。ぼくが思っていたことをはっきり言ってくださるから(笑)。もちろん今やっていることがSDGsにつながることは間違いないですが、基本は「自分の家族が凄いのをやっている」と感じてもらうのが根本にあって。私も子どもの頃、父親から「あの外灯、うちでつくったんやで」というのを聞いて、「凄いな、将来やってみたいな」と思ってたんです。働きがいとはそういうところもあって。うちの社員も同じ体験をして欲しいんですよ。



精密板金加工を中心にレーザー切断・曲げ・溶接などを行い、官公庁向け景観・道路照明器具・医療・理美容機器から介護用品に至るまでさまざまな製品をつくりあげている

●株式会社光製作所

仲間づくり、つながることの大切さ。 集まればチャレンジできることも増える。

奥 少し話は逸れるのですが、先輩方にアドバイスをもらえれば。うちは父親が製造の改革を突き進んで、そのパトンを受けて走っているんですが、今まで一匹狼のような感じでした。ただ最近は仲間づくりにもアンテナを張っていかないとダメだと思っていて。そこでみなさん、どうやって仲間づくりをされたのか、またそれがどう良かったのか教えてもらえたら。

棚橋 うちの人工衛星のプロジェクトやらいろんなことに参加していますが、なんでやっているかと言われたら「面白いから」に尽きますね。私が社長になって経営理念をつくったのですが、「電機の仕事を通じて自らが幸せになり社会に役立つ」。もうひとつ社として「信頼、共に学び共に成長する」があります。だから面白い人がいたら、行って聞いてみるというスタンス。先ほども言いましたがSDGsも最初は嫌だと思って。ところがそういう集まりに参加してみると、みんないろんなことを考えてるとわかって面白くなったんですよ。だから一歩踏み出すことじゃないですかね。

奥 あー、やっぱりそうですね。

棚橋 好奇心が強いので、いっちょかみしたい(笑)。最初は苦手だと思っていた人が、気がついたらいけば仲良くなっているということもよくありますし。それと今の世の中、1社ではできないことも何社か集まればチャレンジできることもありますから。

井上 おっしゃるとおりだと思います。付け加えると、1社だけで成長しようと思ってもダメで。東大阪市もみんなが集まって頑張ったから「東大阪市=ものづくりのまち」というイメージが定着した。いろんな会があるので一度行ってみればいい。合わなければ抜けたらいいだけのことで。来るのを待つよりは自分から動いたほうがいい。

奥 まずは行ってみると。

棚橋 そう。あと商売になるとか、儲けようとか考えたらよくない(笑)。

奥 それはよく聞きますね。

棚橋 「まいど1号」のときよく聞かれた、「儲かりますか」と。儲かりませんよ(笑)。なぜやるのかといえは新しい技術を勉強できるし、いろんなネットワークとつながれるから。「まいど1号」でJAXAと出会い、そこからJICAや、JETROへつながった。これはお金では買えないもの。今日も話を聞いていたら、ぜひおふたりの会社に伺いたいと思っ。無理しなくてもいいです。考えの似た人は集まって自然とつながりも生まれますから。

企業理念にSDGs的精神を見いだせるか。 SDGsを誇りやプライドを持つきっかけに。

井上 私は経営理念や会社の方針こそ基礎だと思っているんです。それが無いのにSDGsをやっても社員はついてこないです。ただ流行に乗っているだけじゃ見えませんから。会社の理念があってそれがSDGsにつながる。それが自然な流れだと思います。経営理念や方針があれば、かならずSDGsの17のゴールや169のターゲットのどれかにあてはまりますよ。

奥 ぼくは一人っ子でいずれば後を継ぐと思っていたものの、忙しいときには夜も寝ずに働く両親の姿を見てキツイという気持ちもあって。実業団にも内定しており、